

●監訳・訳者紹介

埋橋 玲子（うずはし れいこ）[監訳]

同志社女子大学現代社会学部現代こども学科教授。ECERS-J（保育環境評価スケール研究会）代表。専門は保育評価，イギリスの保育制度。アメリカでECERS，ITERS，FCCERSの著者によるトレーニングを受けた。日本では保育環境評価スケールの翻訳の出版を行うとともに，スケールを用いての評価実習を長年行い，合わせて保育現場でのスケールの活用についてのレクチャーを実践者とともに定期的に行っている。

主要な著書は『チャイルドケア・チャレンジーイギリスからの教訓』（法律文化社，2007年），*Beginning School: US Policies in International Perspective*（分担執筆，Teachers College Press，2009年），『世界の幼児教育・保育改革と学力』（分担執筆，明石書店，2008年），『新・保育環境評価スケール①3歳以上』『同②0・1・2歳』『同④放課後児童クラブ』（翻訳，法律文化社，順に2017年，2018年，2019年），『新・保育環境評価スケール③考える力』（共訳，法律文化社，2018年）。

辻谷 真知子（つじたに まちこ）[翻訳]

白梅学園大学・日本学術振興会特別研究員（PD）。東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士（教育学）。専門は保育学。保育における規範（決まりごとやルール），戸外環境に関する研究を行う。

著書に『体を動かす遊びのための環境の質』評価スケール—保育における乳幼児の運動発達を支えるために』（共訳，明石書店，2018年），『園庭を豊かな育ちの場に—質向上のためのヒントと事例』（共著，ひかりのくに，2019年）。

宮本 雄太（みやもと ゆうた）[翻訳]

福井大学大学院連合教職開発研究科講師。日本学術振興会特別研究員（DC）。修士（教育学）。専門は保育学。保育における子どもの視点，民主主義，幼児の集まり場面における自己表出と自己抑制を主体性とケア性の観点から研究を行っている。

著書に『園庭を豊かな育ちの場に—質向上のためのヒントと事例』（共著，ひかりのくに，2019年），“The Exploration of Four-Year-Olds Potential: Focusing the Democratic Meeting During the Sports Festival Day” In *Children's Self-determination in the Context of Early Childhood Education and Services* (pp. 37-50). (3章執筆，Springer，Cham. 2019年)，翻訳書に『体を動かす遊びのための環境の質』評価スケール—保育における乳幼児の運動発達をさせるために』（共訳，明石書店，2018年）。

渡邊 真帆（わたなべ まほ）[翻訳]

広島大学大学院教育学研究科博士課程後期（在学中）。修士（教育学）。専門領域は保育学，幼児教育学。幼稚園3歳児保育室における登園後の身支度場面について，物的環境の視点から研究している。

著書に『複線径路・等至性アプローチ（TEA）が拓く保育実践のリアリティ』（分担執筆，特定非営利活動法人 ratik，2019年）。

●著者紹介

ホリー・セプロチャ (Holly Seplocha)

ウィリアム・パタソン大学乳幼児教育学教授。ニュージャージー州質評価センター局長。教師、行政職、大学教授、保育者養成、コンサルタント、調査などに40年以上のキャリアがある。リーダーシップ、多様性、保護者との連携、リテラシー等についての多くの著作があり、国内外で多くの保育者、行政職、保護者対象に講演を行い、多くの調査研究に携わっている。

ECERS-3とECERS-Rのきわめて信頼性の高いアセッサーであるとともに、指導的な立場にある。

全米乳幼児教育協会 (NAEYC) の発行する *Young Children* の編集に携わり、協会の年次大会では注目されるプレゼンターである。